

毎日が春、木の家と笑い声が いつもあたたかいかい



2間の大きな窓をダイニングに配置し、ソファコーナーには隣家からの視線を考慮してハイサイド窓を設けた。薪ストーブやパソコンスペースなど、家族の集まる広間にはいろいろなコーナーを設け、自然と人が集まるプランを提案した。

完成現場報告 静岡市／『三春の家』

文・写真／ココロポ 山崎健治

3月も下旬に入り、暖かな日が続いたと思えば急に冬の寒さに逆戻り、東京の桜は開花したと聞きましたが静岡の桜は少しゆっくりしているようです。そんな肌寒さの残る日に、一昨年完成した『三春の家』にお伺いしてきました。

タイトルに『三春の家』とつけたのは、元気で可愛い三人娘のそれぞれの名前に桜の文字が入っていることから名づけました。三春と言えば春の総称ですが、この家は三人娘の明るい笑顔で、一年中春が来ているような雰囲気でした。設計打ち合わせをしている中でお誕生日会を行ったり、『こらぼの家』で夕食会なども行いました。いつも笑い声が絶えず(時には喧嘩して泣き声も…)、私も家族に混ぜていただいたようでもとても楽しい打ち合わせだったことを覚えていきます。

施主のOさんご夫婦とはとても長いお付き合いで、かれこれ9年ほど前から見学会やイベントなどに参加され、スタッフはもちろん、職人とも顔見知りの仲でした。特に毎年企画している『こらぼスクール』の木エワークショップには何度となく参加

いただき、様々なものを制作していただきました。年々腕を上げ、小さな作品がだんだんと大きくなり、また、実際に住まいで使用できるアイデア家具まで制作するようになりました。

そんなOさんとの家づくりですが、子育て真っ最中ということで、明るく開放的な家の中でも特に家事動線にこだわったプランを組み立てました。ぐるっと回れる動線や収納計画、季節や天気に合わせて物干しスペースなど、普段の生活に密着した工夫をしていきました。今回号では、Oさんと積み上げた工夫やこだわり、そして、三人娘の可愛い暮らしぶりもご紹介したいと思います。



家の完成に合わせて制作した家族の手形。親指を鼻に見立てたゾウさんです。



三人娘の名前にちなんで選んだ大黒柱は『山桜』。ガラスに挟み込んだ葛布も桜で染め、優しいピンク色になった。大黒柱に今年の目標が張られていたのが印象的…。



南側からの外観。大きな木の窓と、木で出来たベランダの手摺壁が特徴的。長いベランダは布団干しに最適。

いたのでその部分は残して計画すること、敷地の東側に接する2項道路(幅3m程の道)からのセットバックなどを考慮することなどの制約はありましたが、大きな問題にはならずゆとりのあるプランをつくることができました。

〇さんご夫婦の要望はそれぞれ担当が違い、ご主人は大きな窓や開放感のある空間を、奥さんは動きやすい家事動線や収納について考えていました。お互い目を向けるポイントは違えど共通部分も多く、薪ストーブやサンルームの設置は一致した要望でした。特にサンルームの必要性や位置についてはびったりと意見が合い、キッチンと脱衣室から利用出来る日当たりがよく、広間やダイニングからは見えにくい場所に設けることが出来ました。子育て中の家族はとにかく洗濯物の量が多く、梅雨や花粉の季節でも毎日気持ち良く干したいもの。木に包まれたサンルームは調湿性も高く、一年を通して大いに役立つ存在となりました。サンルームはそのまま物干しデッキにつながり、ガラス屋根になった軒下スペースでは、晴れた休日にシートや布団などを気持ち良く干せ、〇さん家族にとって重要な場所になっているようです。サンルームに続き〇さんのお宅の特徴として、1階に設けたスタディールームがあります。家のプランを考えた時、子供室について悩まれる方も多いと思います。一般的にはそれぞれの



玄関に置かれていたウェルカムボード？ こーゆーのおじさんは弱い…嬉しいですね。

子供室を2階に設け、独立したスペースを与えてあげたいと考える方が多いと思いますが、当然、子供の年齢によってその必要性は変わってきます。幼稚園や小学校低学年の時に一人で部屋にいる事はなく、常にお母さんの近くにいると思います。遊びも宿題も食卓テーブルで行い、周りにはカバンが置かれ、本やおもちゃが床に広がっている…そんな光景がイメージできます。〇さんも三人娘の子供室についていろいろと考えました。それぞれの年齢で違いがありますが、個室が必要になるまでは広間隣のスタディールームに机を置いて、それぞれのスペースとし、成長に合わせて2階の部屋を利用する案としました。ただ、三人分の部屋を確保するのではなく、大小の部屋をひとつずつ設けて成長に合わせて使っていくという事になりました。スタディールーム

ソファコーナーから、ダイニング、キッチンを見る。テーブル下のラグを外したら日焼け跡がくっきり…。「こんなに色が変わるんだね」とみんな驚いた。



暮らしやすさを優先した間取り

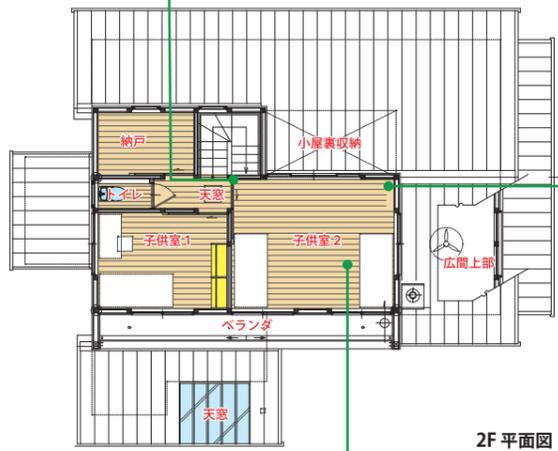
〇さんの家づくりは、ご両親とおばあちゃんに住む実家に帰ってきたことから始まります。元々、ご両親の暮らす家とおばあちゃんの家が同じ敷地内にあり、〇さん家族はおばあちゃんと一緒に生活をスタートしました。まだお子さんも小さく、家族の暮らしが落ち着いたら新しい家を建てたいと考えていました。おばあちゃんの家は広く十分な部屋数もありましたが、生活スペースは暗く寒く、また建物の老築化も進み、3人のお子さんだと暮らすには不便な点も多くありました。建物は間取り的な問題で日当たりが得られていませんでしたが、敷地は広くプラン次第では採光や通風が得られる環境でした。周辺には家が建ち並んでいましたが、それぞれのお宅に十分な広さがあり、混み混みとした印象はありませんでした。私が初めて〇さんのお宅にお伺いしてから数年が経ち、お子さんも小学校や保育園に通うようになった頃、そろそろ計画を始めていきたいとお話をいただき、ゆつくりと家づくりがスタートしていきました。ご両親の家との関係やそれぞれの家の日当たりや風通し、共有する駐車場などの計画も検討し、建物のポリュームや配置などを考えていきました。元々敷地の一部に畑があり、お母さんの楽しみにもなっ

仕様内容

家族構成	5人
敷地面積	312.14m ²
建築面積	100.20m ²
延床面積	129m ²
構法	在来構法
屋根	ガルバリウム鋼板縦ハゼ葺き
外壁	ガルバリウム鋼板角波タテ貼、マサ土掻き落し仕上げ
外部建具	木製オリジナル建具 ナラ、タモ(ペアガラス) アルミサッシ(ペアガラス)
天井仕上	杉本実張り 厚30mm・12mm、青森ヒバFJ本実板張り 厚15mm
壁	漆喰塗、青森ヒバFJ本実板張り、クロス張り
床	桧本実板 厚15mm、杉本実板 厚12mm
内部建具	木製オリジナル建具、葛布ガラス入框戸
キッチン	ステンレスヘアライン天板オリジナルキッチン
洗面化粧台	TOTO 人工大理石天板システムJオリジナル化粧台
浴室	日比野化学工業 ハーフユニットバス1坪タイプ
設計・施工	／有限会社こころ木造建築研究所
竣工	／平成29年7月



それぞれの子供室の入口に設けたステンドグラス。子供たちの絵を元にプラトーさんに製作してもらったフュージョンという技法のステンドグラス。



2F 平面図



現在は家族みんなで寝ているという2階の子供室(大)。10畳あり、ゆくゆくは二人の子供室になる予定。



薪ストーブの暖気を2階へ導くための丸穴。覗いてTVを見た話したりと楽しんでいる。



杉の木に包まれたサンルーム。雨の日、寒い日、花粉の季節、どんな時も活躍してくれるサンルームは、本当につくって良かったと絶賛！



洗濯機横にある収納棚はこころばスクールで製作したもの。使い勝手を考えて製作。



ココロポオリジナルの洗面化粧台。収納鏡の下も鏡を貼り、子供目線でも使えるようにした。



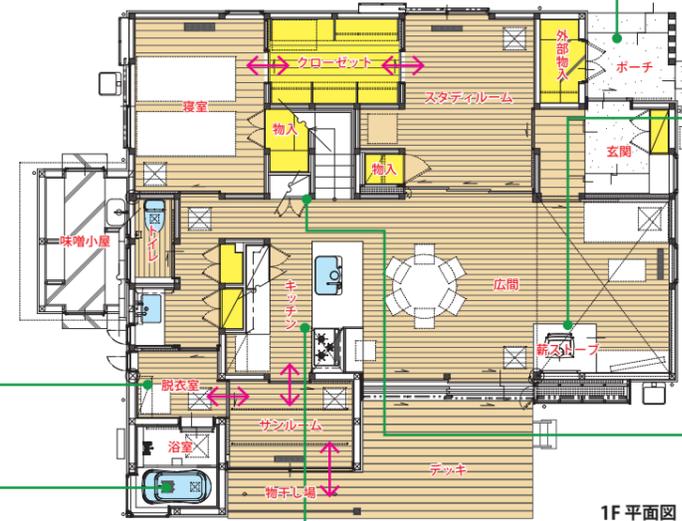
ハーフユニットバスを使った木の浴室。日当たりの良い場所につくったので、明るく清潔感のある浴室になった。



明るく落ち着いた雰囲気の玄関。たっぷり収納を確保している。



玄関ポーチ近くに設けた屋根付きスペースに自転車や子供の遊び道具が置いてある。



1F 平面図



対面型のキッチン。ガラス窓の向こうはサンルームにつながっている。

薪ストーブは、11月～4月頃まで活躍し、静岡でも約半年ほどつけている人が多い。Oさんの家も、まだまだ寒い日はあるので活躍していますよ！との事。



薪棚にはたくさんの薪が積まれていた。これで来シーズンも安心。



キッチン近くに設けた収納。上部に神棚スペースを設けている(おばあちゃんの家にあったもの)。

ムは将来的に客間や仏間にしたり、その時の状況によって変化できるフリースペースとして重宝な部屋になりそうです。プランの中で、もうひとつこだわったのが収納スペース。元々広い家に住んでいたのでもだんだんと物が増え、特に子供の遊び道具や生活小物、ストックする食品もあらかじめ収納場所を考えて置きたいという事で、それぞれに合わせた収納場所を考えました。玄関ポーチに子供たちが外で遊ぶ物を入れ、水廻りに生活小物やストック、掃除機スペースも専用につくりました。寝室にはクロゼットや物入れをつくり、将来的には平屋で生活出来る収納配置としました。家の西側につくった味噌小屋…これはお母さん専用です。その他、キッチンまわりや洗面化粧台、脱衣室やトイレにも細かな棚や収納を設け、細々とした物の置場もつくりました。

『こころぼスクール』でつくった作品を暮らしの中に活かす

冒頭でもお話しましたが、Oさんは、当社で行っている木工ワークショップ、「こころぼスクール」で様々なものを作ってくれています。始めは子供のおもちゃや簡単な棚などでしたが、家づくりが本格的になった頃から新しい住まいで使う事をイメージして、置き場所や大きさを考えて本格的な家具をつくるようになりました。自分でつくるようになって改めて大工技術のすごさに感心させられ、今では家が大きな見本となっていると話していました。

今回は、暮らしの中で生かされている木作品を一部ご紹介します。



ソファコーナーに置かれたセンターテーブル。杉の厚板を天板に使い、4本足、幕板で構成されている。



脱衣室に置かれた収納棚。バスマット板、体重計の置き場所を考慮して制作した。

子供のおもちゃとして制作したキッチン。初期の作品と話していました。椅子は建具屋さんが用意してくれた端材キットで制作した。



家族を見守る あたたかな木の家

家が完成して、今年の夏で早二年。あつという間に月日が流れていきます。取材でお伺いした日はご家族みなでお迎えしてくれ、三人娘も変わらず元気な笑顔を見せてくれました。だんだんとすっかりしてきた長女、ちよっぴり泣き虫な次女、そして天真爛漫な三女。それぞれに個性があり、お母さんお父さんは大変そうですが、家のあちらこちらに子供たちが書いた絵や習字、家族みんなで作った作品が置かれ、変わらず素敵な家族だと思いました。子供たちを見守るあたたかな目、子供たちのキラキラした目、それぞれに忙しい毎日だとは思いますが、この木の家の中にはゆったりとしたあたたかな空気が流れていると感じます。高性能な家、便利な家、カッコイイ家、それぞれに求める家は違いますが、木の家の目指す所はやはり家族が幸せに暮らせる家、豊かな気持ちになれる家だと思います。家づくりから深く関わらせていただき、Oさん家族は現代に欠けている大切な部分を教えてくれる素敵な家族だと感じています。そんなOさんの暮らす木の家、家族の成長と共に、もつともつと素敵になっていく事を願っています。